

公園内で見られる植物

写真は11月19日(土)
自然観察会で見られた
植物です



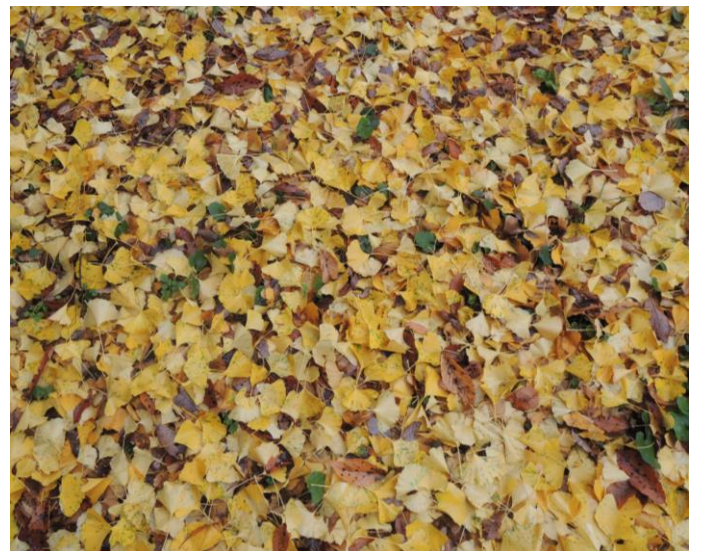
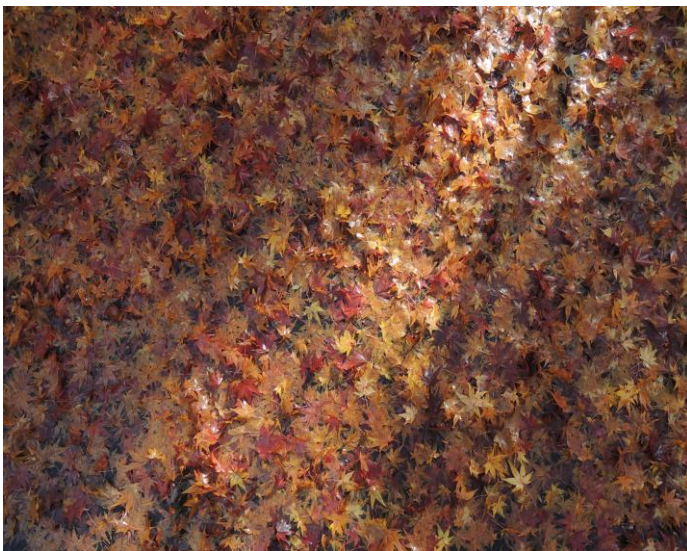
カタツムリ (軟体動物)

カタツムリと言えば、「でんでんむし」の歌が思い出されますよね。フランス高級食材エスカルゴもカタツムリの1種なのは知っていますが、自然界にいるカタツムリは食べませんよね。エスカルゴが食用とされるのは、衛生管理されているからだそうです。食べた事ありますか!!



メタセコイア（スギ科）とラクウショウ（スギ科）

メタセコイアは生きている化石として有名ですが、良く樹形が似ているラクウショウとは、葉の付き方や球果の大きさ・形で区別する事ができます。でも遠くから見る事が多いので、樹形を見て全体的に丸みを帯びているのがラクウショウで、クリスマスツリーの様にストットしているのがメタセコイアと私は見分けています。ラクウショウは水湿地帯の場所では、膝根と呼ばれる奇妙な気根が地表にニョキニョキと出ています。



イロハモミジ（ムクロジ科）とイチョウ（イチョウ科）

赤いジュータンと黄金のジュータン晩秋ならではの光景ですね。

雨上がりは特にきらきら光って、ロマンチックな想像を掻き立てます。



ヒイラギ (モクセイ科)

白い小さな花が密生して咲いているのできれいですね。キンモクセイなどと同じ科なので、花も似ていますね。ヒイラギは葉にトゲトゲがあるイメージですが、老木になると樹高が高くなって草食動物などに食べられる心配がなくなってくるので、トゲトゲが無くなってきます。



ネズミモチ (モクセイ科)

黒い実は、ネズミの糞によく似ていますね。葉は常緑で厚く光沢があります。トウネズミモチと良く間違えますが、葉っぱを1枚、日にかざして葉脈が透けなければ、ネズミモチです。



ハゼノキの実 (ウルシ科)

真っ赤に紅葉していた葉が落ちて、実だけが残っています。この実を使って、和ロウソクができます。ウルシ科に属していますから、カブれる事がありますので取り扱いには注意しましょう。



クロガネモチ (モチノキ科)

公園樹や街路樹に多く植えられています。赤い実は緑とのコントラストがきれいで良く目立ち、鳥が好んで食べそうな実ですが、遅くまで残っています。黄色の実がなるクロガネモチもあります。モチノキの仲間では若枝や葉柄が黒紫色になるので、クロガネモチの名が付いたようです。



シャリンバイ (バラ科)

ナシ状の実がたくさん付いています。先端に小さな穴が開いた跡があります。梅の花によく似た花を咲かせ、葉の付き方が輪状になっていることからこの名が付いています。公園の街路樹に多く見られます。



トベラ (トベラ科)

枝や葉に臭気があることから、節分に鬼除けとして扉にさしたことから、トビラが訛ってトベラになったと言われています。結構大きな実が付きます。防風林としてよく植えられたようです。



ツチグリ (ツチグリ科)

これはキノコです。とっても変わった形をしていますね。乾いているときは丸まり、湿気を帯びると開いてくるため、「星の湿度計」と呼ばれることがあるそうです。丸い部分（白色の時）を塩茹でなどにして東北地方では食べられているそうです。